

## 第9章 外国語

### 第1 教科目標，評価の観点及び観点の趣旨等

#### 1 教科目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

#### 2 評価の観点及びその趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	初歩的な外国語を用いて，自分の考えや気持ちなど伝えたいことを話したり，書いたりして表現する。	初歩的な外国語を聞いたり，読んだりして，話し手や書き手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する。	初歩的な外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

#### 3 内容のまとまりごとの評価規準の設定

外国語科では，学習指導要領の内容の言語活動における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を内容のまとまりとして，これらごとに評価規準を作成した。

### 第2 内容のまとまりごとの評価規準及びその具体例

#### 英語

#### 1 「聞くこと」

##### 目標

英語を聞くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

##### 言語活動

- (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取る。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，具体的な内容や大切な部分を聞き取る。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を正しく理解すること。

#### 【「聞くこと」の評価規準】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。  さまざまな工夫をすることで，コミュニケーションを続けようとしている。		初歩的な英語の情報を正しく聞き取ることができる。  初歩的な英語を，場面や状況に応じて適切に聞くことができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。  初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。

#### 【「聞くこと」の評価規準の具体例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解

<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずいたりメモを取るなど、相手の話に関心をもっている</li> <li>・聞いたことについて感想や意見を述べようとしている。</li> </ul>		<p>(正確な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強勢、イントネーション、区切りなどを聞き分けることができる</li> <li>・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の発音の違いなど語句や文を聞き分ける知識を身に付けている。</li> <li>・音変化を聞き分ける知識を身に付けている。</li> <li>・状況や場面による強勢やイントネーションの違いを理解している。</li> <li>・場面や状況に応じた表現を知っている。</li> <li>・文構造についての知識がある。</li> </ul>
<p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続ける。</li> <li>・理解できないとき、説明を求めたり聞き返そうとしている。</li> </ul>		<p>(適切な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。</li> <li>・質問や依頼などに対して、適切に応じることができる。</li> <li>・自然な口調で話されたり読まれたりする英語の内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	<p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>

## 2 「話すこと」

### 目標

英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようになる。

### 言語活動

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が続くように話すこと。

### 【「話すこと」の評価規準】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話すことができる。</p>		<p>言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p>
<p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>初歩的な英語を用いて、場面や相手に応じて適切に話すことができる。</p>		<p>初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。</p>

【「話すこと」の評価規準の具体例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ふことを恐れず自分の考えなどを話している。</li> <li>・言語活動において、自ら学んだ表現などを使っている。</li> <li>・関心をもって質問している。</li> <li>・ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力しあっている。</li> </ul> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解してもらえようように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</li> <li>・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。</li> </ul>	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて話すことができる。</li> <li>・文法に従って正しく話すことができる。</li> <li>・話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。</li> </ul> <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい内容，場面，相手によって語句や表現を選択し話すことができる。</li> <li>・聞かれたことに対して適切に回答することができる。</li> <li>・適切な速さや声の大ききさで話すことができる。</li> <li>・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。</li> </ul>		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の発音の違いなど語句や文を正しく発音する知識を身に付けている。</li> <li>・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。</li> <li>・語句や文の使い分けがわかる。</li> <li>・場面や状況にふさわしい表現を知っている。</li> <li>・文構造についての知識がある。</li> </ul> <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭，学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>

3 「読むこと」

目標

英語を読むことに慣れ親しみ，初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。

言語活動

- (ア) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し，適切に応じること。

【「読むこと」の評価規準】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで，コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>初歩的な英語を正しく音読することができる。</p> <p>初歩的な英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読できる。</p>	<p>初歩的な英語の情報を正しく読み取ることができる。</p> <p>初歩的な英語を，目的に応じて適切に読むことができる。</p>	<p>言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。</p>

【「読むこと」の評価規準の具体例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずいたりメモを取るなど、読んでいる内容に関心をもっている。</li> <li>・読んだことについて感想や意見を述べようとしている。</li> <li>・必要に応じて辞書などを活用している。</li> </ul>	<p>(正確な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読できる。</li> </ul>	<p>(正確な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれた内容について正しく読み取ることができる。</li> </ul>	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の発音の違いなど語句や文を正しく発音する知識を身に付けている。</li> <li>・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。</li> <li>・文字や符号を識別する知識を身に付けている。</li> <li>・場面や状況にふさわしい表現を知っている。</li> <li>・文構造についての知識がある。</li> </ul>
<p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できないところがあっても，推測するなどして読み続ける。</li> </ul>	<p>(適切な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や心情に応じた音読ができる。</li> <li>・適切な音量で読むことができる。</li> </ul>	<p>(適切な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。</li> <li>・伝言や手紙などに対して，適切に応じることができる。</li> <li>・文や文章の目的に応じた適切な速さで読み取ることができる。</li> </ul>	<p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭，学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>

4 「書くこと」

目標

英語を書くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようになる。

言語活動

- (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。
- (イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想や意見などを書いたりすること。
- (ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- (エ) 伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと。

【「書くこと」の評価規準】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>初歩的な英語を用いて，自分の考えや気持ちなどを正しく書くことができる。</p>		<p>言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p>
<p>さまざまな工夫をすることで，コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>初歩的な英語を用いて，目的に応じて適切に書くことができる。</p>		<p>初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。</p>

【「書くこと」の評価規準の具体例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ふことを恐れず自分の考えなどを書いている。</li> <li>・ペアワークやグループワークなどにおいて必要に応じて協力しあっている。</li> <li>・読みやすい字で書いたり意欲的に書き直したりしている。</li> <li>・言語活動において、自ら学んだ表現などを使っている。</li> <li>・必要に応じて辞書などを活用している。</li> </ul> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解してもらえようように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</li> <li>・表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。</li> </ul>	<p>(正確な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文法に従って、正しく書くことができる。</li> <li>・書こうとすることを読み手に正確に伝えることができる。</li> </ul> <p>(適切な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい内容、読み手、ジャンルなどによって語句や表現、文章形式を選択し書くことができる。</li> <li>・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。</li> <li>・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。</li> </ul>		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や符号などを使い分ける知識を身に付けている。</li> <li>・語句や文の使い分けがわかる。</li> <li>・場面や状況にふさわしい表現を知っている</li> <li>・文構造についての知識がある。</li> </ul> <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>

### 第3 単元の評価に関する事例

ここでは、教科書の1課を用いて通常の授業を行い、「話すこと」の領域において評価する事例を紹介する。この事例における評価は、指導の結果その内容がどの程度身に付いているかを評価するという観点から示したものであり、練習段階にある内容については評価を行わない。

また、「話すこと」の領域以外の評価も同時に行う場合には、重点の置き方など全体としての評価活動が適切に行われるよう配慮することとする。

本課の名称 「Yuki Goes Abroad」(5時間)(第2学年 5月)

#### 1 本課の主たる目標

- ・ 間違いを恐れず英語で積極的に話す。
- ・ be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文の意味・構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。
- ・ 機内や入国審査や観光地など、場面や相手に応じて適切に表現を選択して、話したり応答することができる。

#### 2 本課の評価規準

【話すこと】

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
話すことの評価規準	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。  さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話すことができる。  初歩的な英語を用いて、場面や相手に応じて適切に話すことができる。		言語や言語の運用についての基礎的な知識を身に付けている。  初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。
本課の評価規準	(言語活動への取組) 間違いを恐れず英語で積極的に話している。  (コミュニケーションの継続) つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。	(正確な発話) be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文を正しく用いて話すことができる。  (適切な発話) 機内や入国審査や観光地など、場面や相手に応じて適切に表現を選択して、話したり応答することができる。		(言語についての知識) be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文の意味・構造を理解している。  (文化についての理解) 英語圏での愛称について理解している。

#### 3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	本課の評価規準との関連	評価方法等
1	空港での放送や機内での会話を聞いて内容を理解できる。 be going to ~ の文の意味・構造を理		

	<p>解し，それを使って自分の予定を話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を聞いて，どういう場面か考える。</li> <li>・もう一度聞き，行く先，到着日時を聞き取る。</li> <li>・本文をざっと読み，女の子が驚いている理由が分かる。</li> <li>・空港での放送や，機内でのフライトアテンダントとの会話の内容について英語の質問に答える。</li> <li>・教師の提示する事柄について，自分の立場で帰宅後の予定や明日の予定を be going to ~ を使って表現しながら，表現方法を練習する。</li> <li>・教師の提示したいいくつかの事柄についてペアで予定を話し合う。</li> </ul> <p>・できるだけ多くの友達と来週の予定を尋ねあい，お互いに予定がなく遊ぶことのできそうな日を探す。(その際，「一番多くの人と遊ぶことのできる日を見つける」，「同じ目的で遊ぶことができる友達を見つける」など，個々に課題を持って活動する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション活動中にみられた be going to ~ の使い方のいくつかの誤りの文例を，正しく書き直す。</li> </ul>	<p>アの</p> <p>エの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察 (単語を提示するなど話す材料を与える)</li> <li>・活動の観察 (説明を繰り返したり補足説明を加える)</li> </ul>
2	<p>いろいろな乗り物の中での案内放送を聞いて，その内容が理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの乗り物の中での放送を聞いて何の乗り物での放送か理解する。</li> <li>・ある機内放送の内容について，所要時間，到着までの所要時間，現地の天候，現地の気温を聞き取り，教師の質問に答えることができる。</li> <li>・別の機内放送の内容を聞いて，所要時間，到着までの所要時間，現地の天候，現地の気温をペアで質問したり，答えたりしながら内容を確認する。</li> <li>・何人かの予定表をもとに，それぞれについて予定を英語で書く。</li> </ul>	<p>イの</p> <p>イの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の応答 (質問を変えて答えやすくする)</li> <li>・活動の観察 (機内でよく用いられる表現を個別指導する)</li> </ul>
3	<p>入国審査での審査官と旅行者の会話を聞いてその内容を理解することができる。</p> <p>S+V(show)+O+O を正しく使って見せてほしいものを見せるよう依頼することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入国審査での会話を聞いて旅行の目的と滞在期間を聞き取る。</li> <li>・会話について教師の質問に答える。</li> <li>・Show me your passport, please. の意味が分かる。</li> <li>・「Please show me your ~.」の教師の指示に従って行動する。</li> <li>・「Please show me ~.」を使ってペア</li> </ul>	<p>アの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> </ul>

	<p>で同じように依頼し合う活動をする。話し手の方は、見せてもらった物に対して英語で Oh, you have a nice eraser. I like it. など感想を付け加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の想定した旅程に即し、滞在目的、期間等内容を変えて、入国審査での会話をペアで行う。</li> <li>・いくつかのペアが発表する。聞き手は、どのような旅行をしようとしているのかを理解する。</li> <li>・教師が取り上げ示したよい例についてその意味を確かめながら、表現を定着させる。</li> </ul>	<p>イの</p> <p>イの</p>	<p>(つなぎ言葉やその使い方方を説明する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察 (パターン練習などを個別指導する)</li> <li>・活動の観察</li> <li>・録画チェック (入国審査でよく用いられる表現を個別指導する)</li> </ul>
4	<p>本文の内容を聞いて観光地の名前の由来やその歴史について理解できる。 S+V(call)+O+C を使って愛称や省略語など身近な内容について話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を聞き、Yuki は何に対してどうして疑問を持ったか。その答えは何かを考える。</li> <li>・内容について教師の質問に答える。</li> <li>・英語圏の国での典型的な愛称(人の名前)や、自分の知っている身近な人の愛称を call を使って表現する。</li> <li>・ほかの愛称について教師の説明を聞いて理解する。</li> <li>・教師の問いに call を用いて愛称を答える。</li> <li>・「エアコン」など、和製英語で省略されているものについての教師の英語の説明を聞いて内容を理解する。</li> <li>・各自、身近な物で、省略されて呼ばれているものを思い浮かべてノートに書き出す。</li> <li>・何がどのように省略されているのかを call を用いてグループで説明し合う。</li> <li>・おもしろい例や、初めて分かった例などを、他のグループに紹介する</li> <li>・各自、グループ内で説明できたものをいくつか選び、ワークシートに英語で書く。</li> <li>・教師が取り上げ示したよい例についてその意味を確かめながら、表現の定着を図る。</li> </ul>	<p>アの</p> <p>エの</p> <p>イの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察 (話しやすい雰囲気を作る)</li> <li>・生徒の応答 (説明を繰り返したり補足説明を加える)</li> <li>・活動の観察 (パターン練習などを個別指導する)</li> </ul>
5	<p>本文を読んで観光地での道の尋ね方や乗り物の利用の仕方、その所要時間についての会話の内容を理解できる。 道を尋ねたり乗り物の乗り方を尋ねることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み空白部分の内容を推測する。</li> <li>・本文を聞いて、推測が合っていたか確かめる。</li> <li>・内容についての教師の質問に答え</li> </ul>		



	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の提示する場面や状況において「Would you ~?」「How can I ~?」「How long ~?」の表現を練習する。</li> <li>・目的地、駅の場所、交通手段、所要時間を記入したワークシートと、地図をもとに、外国のある目的地へ行くための会話をペアで行う。</li> <li>・いくつかのペアが発表する。</li> <li>・教師の提示した場面で、どのように尋ね、どう答えるかを英語で言う。また、ワークシートに書きながら、表現方法を再確認する。</li> </ul>	<p>イの</p> <p>アの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察（観光地でよく用いられる表現を個別指導する）</li> <li>・録画チェック</li> </ul>
後日	<p>教師およびALTのインタビューに答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなことや昨日したこと、愛称などの質問に答える。</li> <li>・準備してきた仮想の旅行について、行き先、目的、滞在期間などの質問に答える。</li> <li>・次の週の日曜日の予定について、ALTと話し合う。</li> <li>・インタビュー後、自己評価表に、よかった点、気を付けたい点などを記入する。</li> </ul>	<p>エの</p> <p>アの , イの ,</p> <p>エの</p> <p>アの , イの ,</p> <p>エの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューテスト</li> <li>・インタビューテスト, 録画チェック</li> <li>・インタビューテスト, 録画チェック</li> </ul>

(注)

- ・ ( )内は評価がCと判断された生徒への指導の手だてを示している。
- ・ 各時に示されている評価方法等は、そのすべてを時間内に評価することを意味しているわけではなく、録画チェックなど授業後に行う場合もある。

#### 4 観点別評価の進め方

アの「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、「間違いを恐れず英語で積極的に話している」と「つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている」の二つの規準を設定している。それらの規準について、この課で話す活動をする時にそれぞれ複数回（ここでは3回ずつ）評価を行う。

最初の規準については、間違いを恐れず英語で積極的に話していることが認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。それが、常に認められる時に「十分満足できる」と判断する。

二つ目の規準についても同様に、つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けようとしていることが認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。それが、常に認められる時に「十分満足できる」と判断する。

Cの評価の子どもへの指導の手だてとしては、話しやすい雰囲気を作ったり、つなぎ言葉やその使い方を説明したり、話し方のヒントを与えたりする。

イの「表現の能力」については、「be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文を正しく用いて話することができる」と「機内や入国審査や観光地など、場面や相手に応じて適切に表現を選択して、話したり応答することができる」の二つの規準を設定している。それらの規準について、それぞれ複数回（ここでは5回ずつ）評価を行う。

最初の規準については、それぞれの文を正しく用いて話することが認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。そして、ほとんど間違えることなく話すことが認められる時に「十分満足できる」と判断する。

二つ目の規準についても同様に、場面や相手に応じて適切に表現を選択して、話したり応答することが認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。そして、ほぼ常に適切に話したり応答することが認められる時に「十分満足できる」と判断する。

Cの評価の子どもへの指導の手だてとしては、パターンの練習をさせたり、場面に応じた表現を説明するなど必要な個別指導を行う。

ウの「理解の能力」については、「話すこと」の領域では評価しない。

工の「言語や文化についての知識・理解」については、「be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文の意味・構造を理解している」と「英語圏の愛称について理解している」の二つの規準を設定している。それらの規準について、それぞれ複数回（ここでは3回と2回）の評価を行う。

最初の規準については、それぞれの文の意味・構造についての知識が備っていると認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。そして、ほぼ確実に備っていると認められる時に「十分満足できる」と判断する。

二つ目の規準についても、英語圏の愛称について理解していると認められる時に「おおむね満足できる」と判断する。そして、ほぼ確実に理解していると認められる時に「十分満足できる」と判断する。

Cの評価の子どもへの指導の手だてとしては、説明を繰り返したり補足説明を加える。さらに例示を増やすなどして理解を図る。

## 5 観点別評価の総括

本事例における評価の観点ごとの総括については次のように考える。

まず最初に、評価の観点ごとに設定された評価規準についてA B Cの評価を行う。そして本事例のように一つの観点に対して二つの評価規準を設定して評価する場合は、「A A」をA、「B B」をB、「C C」をCとする。その中間的な段階については、その課の目標や評価した内容などに応じて適宜重み付けをして総括する。

例えば本事例において、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」に対する評価規準である「間違いを恐れず英語で積極的に話している」の評価が「A」、「つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている」の評価が「B」とする。前者は本課の主たる目標として明確に示されているが後者はそうではないので前者の評価に重みを置き「A」と総括する。

また、「表現の能力」に対する評価規準である「be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文を正しく用いて話すことができる」の評価が「B」、「機内や入国審査や観光地など、場面や相手に応じて適切に表現を選択して、話したり応答することができる」の評価が「A」とする。両者が本課の主たる目標と設定されているが、前者を指導内容としてより重視しているので前者の評価に重みを置き「B」と総括する。

同様に、「言語や文化についての知識・理解」に対する評価規準である「be going to ~ , S+V+O+O , S+V+O+C の文の意味・構造を理解している」の評価が「B」、「英語圏の愛称について理解している」の評価が「A」とする。前者は本課の主たる目標として明確に示されており、また、評価内容としても後者より前者に重きを置いていることから、前者の評価に重きを置き「B」と総括する。

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。